新潟市早期景気観測調査

～平成29年2月分～

～目次～

2月調査の概要と概況　・・・P1

売上等項目別評価と業種別DI値　・・・P2

業界から寄せられた主なコメント　・・・P3

本調査方法と調査内容　・・・P4

新潟商工会議所

１．２月調査の概要と概況

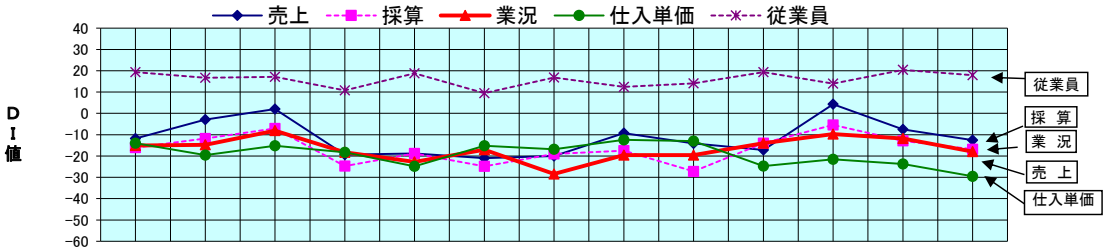
【2月の概要】

景況感はやや下降、先行きは依然不透明

１月に比べると、売上ＤＩ、採算ＤＩ、業況ＤＩ、仕入単価ＤＩはそれぞれマイナス幅が増加し、従業員ＤＩはプラス幅が減少した。卸売業では受注は横這い、小売業では販売不振、製造業でも経済動向の先行きを不安視する声が聞かれ、景況感はやや下降気味で推移している。

先行きについては、１月に比べ、売上ＤＩと従業員ＤＩがプラス幅が増加し、業況ＤＩもマイナス幅が減少するなど、やや改善を見込むが、採算ＤＩ、仕入単価ＤＩはマイナス幅が若干増加しており、依然として先行き不透明な見通し。

景気動向(前年同月比)全産業DI値（平成28年2月～平成29年2月）



	H28年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	H29年2月
売上	▲ 11.8	▲ 2.9	2.0	▲ 19.4	▲ 18.8	▲ 21.0	▲ 20.0	▲ 9.3	▲ 14.1	▲ 17.2	4.3	▲ 7.5	▲ 12.6
採算	▲ 16.1	▲ 11.8	▲ 7.1	▲ 24.7	▲ 18.8	▲ 24.8	▲ 19.0	▲ 17.5	▲ 27.2	▲ 14.0	▲ 5.4	▲ 12.9	▲ 16.8
業況	▲ 15.1	▲ 14.7	▲ 8.1	▲ 18.3	▲ 22.8	▲ 17.1	▲ 28.4	▲ 19.6	▲ 19.6	▲ 14.0	▲ 9.7	▲ 11.8	▲ 17.9
仕入単価	▲ 14.0	▲ 19.6	▲ 15.2	▲ 18.3	▲ 24.8	▲ 15.2	▲ 16.8	▲ 12.4	▲ 13.0	▲ 24.7	▲ 21.5	▲ 23.7	▲ 29.5
従業員	19.4	16.7	17.2	10.8	18.8	9.5	16.8	12.4	14.1	19.4	14.0	20.4	17.9

DI(景況判断指数)＝（良い割合）－（悪い割合）

１．調査概況報告

【全産業平均DI】

全産業の前年同月比では、１月に比べ売上ＤＩが５．１ポイント、採算ＤＩが３．９ポイント、業況ＤＩが６．１ポイント、仕入単価ＤＩが５．８ポイントそれぞれマイナス幅が増加した。従業員ＤＩは２．５ポイントプラス幅が減少した。

全産業平均ＤＩ - 向こう３か月間の先行き見通し

	売上(受注･出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
1月	1.1	▲ 5.4	▲ 19.4	18.3	▲ 8.6
2月	5.3	▲ 7.4	▲ 25.3	24.2	▲ 2.1

先行きは、売上ＤＩが４．２ポイント、従業員ＤＩが５．９ポイントそれぞれプラス幅が増加したものの、採算ＤＩは２．０ポイント、仕入単価ＤＩは５．９ポイントそれぞれマイナス幅が増加した。業況ＤＩは６．５ポイントマイナス幅が減少した。

【業種別DI】

建設業は前年同月比で１月に比べ、採算ＤＩがマイナス幅が８．７ポイント減少したものの、業況ＤＩがプラスからマイナス２２．２ポイントとなり、売上ＤＩは０からマイナス１６．７ポイントとなった。仕入単価ＤＩは７．９ポイントマイナス幅が増加し、従業員ＤＩもプラス幅が３．９ポイント減少した。先行きは、従業員ＤＩが７．２ポイント、業況ＤＩが１１．１ポイントとそれぞれプラス幅が増加したものの、売上ＤＩはマイナス５．６ポイント、採算ＤＩはマイナス１１．１ポイントとそれぞれプラスからマイナスに転じた。仕入単価ＤＩも１８．３ポイントマイナス幅が増加した。

製造業は前年同月比で１月に比べ、売上ＤＩが１３．９ポイント、業況ＤＩが３．９ポイントとそれぞれプラス幅が増加したものの、仕入単価ＤＩは１２．８ポイントマイナス幅が増加し、採算ＤＩは０．６ポイント、従業員ＤＩは１７．２ポイントとそれぞれプラス幅が減少した。先行きは仕入単価ＤＩが１８．９ポイントとマイナス幅が増加したものの、採算ＤＩプラス１０．０ポイント、業況ＤＩはプラス１５．０ポイントとそれぞれマイナスからプラスに転じた。また売上ＤＩは２９．４ポイント、従業員ＤＩは３．３ポイントとそれぞれプラス幅が増加した。

卸売業は前年同月比で１月に比べ、従業員ＤＩが１０．０ポイントプラス幅が増加したものの、売上ＤＩは１０．２ポイント、採算ＤＩは１０．４ポイント、仕入単価ＤＩは１５．１ポイント、業況ＤＩは５．９ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。先行きは、売上ＤＩがマイナスからプラス９．５ポイントに転じ、従業員ＤＩは１０ポイントプラス幅が増加したものの、採算ＤＩは５．５ポイント、仕入単価ＤＩは１０．８ポイント、業況ＤＩは０．７ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。

小売業は前年同月比で１月に比べ、従業員ＤＩが１．８ポイントプラス幅が増加し、仕入単価ＤＩがマイナス１２．５から０となったものの、売上ＤＩは０からマイナス４２．９ポイント、採算ＤＩはマイナス７１．４ポイント、業況ＤＩはマイナス５７．１ポイントとなった。先行きは、仕入単価ＤＩがマイナス１２．５ポイントから０となったものの、業況ＤＩはプラスからマイナス１４．３ポイントに転じ、売上ＤＩと従業員ＤＩは１０．７ポイントプラス幅が減少した。採算ＤＩはプラス１２．５ポイントから０となった。

サービス業は前年同月比で１月に比べ、従業員ＤＩが７．２ポイントプラス幅が減少したものの、売上ＤＩは４．３ポイント、採算ＤＩは７．８ポイント、仕入単価ＤＩは７．２ポイント、業況ＤＩは１６．８ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。先行きは、従業員ＤＩが４．６ポイントプラス幅が増加し、売上ＤＩは２．９ポイント、採算ＤＩは６．４ポイント、仕入単価ＤＩは１２．０ポイント、業況ＤＩは１０．５ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。

２．売上等項目別評価と業種別DI値

【項目別評価】

〈売上〉

売上ＤＩの前年同月比は、製造業が１３．９ポイントプラス幅が増加し、サービス業が４．３ポイントマイナス幅が減少したものの、建設業は０からマイナス１６．７ポイントへ、小売業も０からマイナス４２．９ポイントとなった。卸売業は１０．２ポイントプラス幅が減少した。先行きについては、建設業がプラスからマイナス５．６ポイントとなり、小売業が１０．７ポイントプラス幅が減少したものの、製造業は２９．４ポイントプラス幅が増加し、卸売業はマイナスからプラス９．５ポイントに転じ、サービス業は２．９ポイントマイナス幅が減少した。

〈採算〉

採算ＤＩの前年同月比は、建設業が８．７ポイント、サービス業が７．８ポイントとそれぞれマイナス幅が減少したものの、製造業は０．６ポイントプラス幅が減少し、卸売業は１０．４ポイントマイナス幅が増加し、小売業は０からマイナス７１．４ポイントとなった。先行きについては、製造業がマイナスからプラス１０．０ポイントに転じ、サービス業が６．４ポイントマイナス幅が減少したものの、建設業はプラスからマイナス１１．１ポイントに転じ、卸売業は５．５ポイントマイナス幅が増加し、小売業はプラス１２．５ポイントから０となった。

〈仕入単価〉

仕入単価ＤＩの前年同月比は、小売業でマイナス１２．５ポイントから０となり、サービス業で７．２ポイントマイナス幅が減少したものの、建設業は７．９ポイント、製造業は１２．８ポイント、卸売業は１５．１ポイントマイナス幅が増加した。

先行きについては、小売業でマイナス１２．５ポイントから０となり、サービス業で１２．０ポイントマイナス幅が減少したものの、建設業は１８．３ポイント、製造業は１８．９ポイント、卸売業は１０．８ポイントとそれぞれマイナスポイントが増加した。

〈従業員〉

従業員ＤＩの前年同月比は、卸売業で１０．０ポイント、小売業で１．８ポイントとそれぞれプラス幅が増加したものの、建設業は３．９ポイント、製造業は１７．２ポイント、サービス業は７．２ポイントとそれぞれプラス幅が減少した。

先行きについては、小売業で１０．７ポイントプラス幅が減少したものの、建設業は７．２ポイント、製造業で３．３ポイント、卸売業で１０．０ポイント、サービス業で４．６ポイントとそれぞれプラス幅が増加した。

〈業況〉

業況ＤＩの前年同月比は、製造業で３．９ポイントプラス幅が増加し、サービス業で１６．８ポイントマイナス幅が減少したものの、建設業はプラスからマイナス２２．２ポイントに転じ、卸売業は５．９ポイントマイナス幅が増加し、小売業は０からマイナス５７．１ポイントとなった。

先行きについては、小売業でプラスからマイナス１４．３ポイントに転じ、卸売業で０．７ポイントマイナス幅が増加したものの、建設業は０からプラス１１．１ポイントとなり、製造業はマイナスポイントからプラス１５．０ポイントとなり、サービス業は１０．５ポイントマイナス幅が減少した。

【参 考】全産業平均DI-向こう3か月間の先行き見通し

	売上（受注・出荷）	採算	仕入単価	従業員	業況
1月	1.1	▲ 5.4	▲ 19.4	18.3	▲ 8.6
2月	5.3	▲ 7.4	▲ 25.3	24.2	▲ 2.1

２．業種別DI値

①:前年同月比　②:向こう3か月間の先行き見通し

(1)建設業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
1月	0.0	14.3	▲ 14.3	9.5	▲ 14.3	▲ 9.5	9.5	9.5	4.8	0.0
2月	▲ 16.7	▲ 5.6	▲ 5.6	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 27.8	5.6	16.7	▲ 22.2	11.1

(2)製造業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
1月	11.1	5.6	5.6	▲ 5.6	▲ 22.2	▲ 11.1	22.2	16.7	11.1	▲ 11.1
2月	25.0	35.0	5.0	10.0	▲ 35.0	▲ 30.0	5.0	20.0	15.0	15.0

(3)卸売業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
1月	▲ 13.6	▲ 4.6	▲ 18.2	▲ 13.6	▲ 18.2	▲ 27.3	9.1	9.1	▲ 22.7	▲ 13.6
2月	▲ 23.8	9.5	▲ 28.6	▲ 19.1	▲ 33.3	▲ 38.1	19.1	19.1	▲ 28.6	▲ 14.3

(4)小売業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
1月	0.0	25.0	0.0	12.5	▲ 12.5	▲ 12.5	12.5	25.0	0.0	25.0
2月	▲ 42.9	14.3	▲ 71.4	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	▲ 57.1	▲ 14.3

(5)サービス業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
1月	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 29.2	41.7	33.3	▲ 37.5	▲ 20.8
2月	▲ 20.7	▲ 13.8	▲ 17.2	▲ 10.3	▲ 34.5	▲ 17.2	34.5	37.9	▲ 20.7	▲ 10.3

3. 業界から寄せられた主なコメント

平成29年2月

建設業	総合建設	年度末を迎え竣工引き渡し時期となっているが市場活況感は感じられず、不況感が出てきている。
	塗装工事	4月以降は仕事量が多くなる予定。
製造業	機械部品加工	従業員は技術継承において定年者減分を補充してこなかったツケが来ている。
	鉄工	材料費の高騰が今後気になるところである。アメリカの経済動向の先行が見えない、日本経済に及ぼす影響が気になる。
卸売業	日用品	年末年始の需要期が終わり、2月売上は低調。
	青果	受注は横ばい状態が続くと思われる。
小売業	日用品・家具	業界全体では、販売不振で、収益低下傾向である。
サービス業	人材派遣	受注は過多であるが、派遣労働者の不足に伴う機会喪失がある。
	タクシー	従業員不足のところ、1人当たりの売上が伸びているため売上が増加している。
	理美容	大型低料金店の台頭により厳しい状態である。

４．本調査方法と調査内容

業種別調査対象数

業　　種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	合　計
調査対象数(件)	61	61	60	50	69	301
回答数(件)	18	20	21	7	29	95
回収率(%)	29.5	32.8	35.0	14.0	42.0	31.6

調　査　方　法

新潟市内にある当所の会員企業・団体等の中から、建設・製造・卸・小売・サービスの５業種について、予め調査への協力をお願いした301ヶ所の調査対象に対し、毎月１５日前後に調査票をインターネットまたはファクシミリ送信し、２５日前後までに寄せられた回答を集計し、その結果をDI値で表します。

質　問　内　容

売上・採算・仕入単価・従業員・業況について、今月の動向が前年同月と比較してどのように変化しているかということと、今後3ヶ月の見通しについて、今月と比較してどのように考えるかということを尋ねています。

Ｄ　Ｉ　と　は

DI(DIFFUSION INDEX)値：景況判断指数

売上・採算・業況などの各項目についての、調査対象の判断の状況を表す指数です。
ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を示す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。つまり、売上高など実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味します。

ＤＩの計算方法

DI＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

売上	（増加）の回答％－（減少）の回答％
採算	（好転）の回答％－（悪化）の回答％
仕入単価	（下落）の回答％－（上昇）の回答％
従業員	（不足）の回答％－（過剰）の回答％
業況	（好転）の回答％－（悪化）の回答％